



子育てチャンネル

「学習障害」というしLDの克服

おひさままで発達相談を担当して22年。長く相談を担当してき
て思うところがある。

2、3才児の相談だと「ことばが遅い」という主訴が8割を占める。この年齢では、家庭でことばの発達(おしゃべり)に関する違和感が一番分かりやすく気づきやすいからでもある。

例えば「話し始めが遅い」「単語を並べる」「発音が不明瞭で分かりづらい」「やりとり会話がチグハグ」など、ことばの問題は幅が広い。

そしてこの子たちが年長になると、心配はことばの問題から「ひらがなの読み書きができない」「ことばの指示が通らない」「落ち着かない」などと就学を控えて学習面に関係した心配ごとが増えていく。

先日参加した研修会で出た話題だが、旭川市では読み書きの障害である学習障害(LD)の児童が増えていて、それに伴い

LDの特別支援学級も増えているところである。

読み書きの障害、と簡単にいうものの、さまざまな態様がある。その中で○知的な遅れはないが、ひらがなを正しく書けない○ひらがなは読めるが意味の理解が苦手○文章を作れない○計算ができないーなど、特定の項目の学習で不得意さが極端に目立つ症状を

「学習障害」と呼んでいる。

トム・クルーズやビル・ゲイツなど、有名人であってもその特性を持っている場合がある。

LDの支援には、視覚認知のトレーニングや環境調整(見ること、聞くことの工夫)が有効と

いう報告があり、大変参考になった。

元気に伸び伸びと登校するために

私事ではあるが、わが家の第3子はことばが遅く、発音が不明瞭で、3歳児健診では自分の名前が答えられなかった。



この子が小学校に上がった時に気を遣った

ことが一つだけある。学校生活の中でこの子の困り感や変化(サイン)を受け止めて対応しよう、と思ったことである。

言葉でうまく表現できない子には、その行動や思いを周囲で読み取ってやる必要がある。

「友達から言われたことが気になる」「トラブルの理由を説明できない」という時、親として子の思いに寄り添うことが、問題の解決には至らなくても大事なことであるように思う。

初めて就学を迎えるお子さんがいる保護者は、周りにいる先輩お母さんの話を聞くと参考になることも多い。準備するもの、登下校の道のりなどを気軽に聞いてみるといい。来年の小学校就学ガイドンスが9月に行われていると思うので、お子さんの就学で不安な思いを持たれていく方は、それぞれの小学校で教育相談を受けることをお勧めする。

「子どもが元気に学校に通えること」が大事である。新しい環境で伸び伸びと過ごせるように周りで応援してあげたい。

東神楽町・東川町子ども発達支援センターおひさま

石上 美智子